IEYASU ENTERS THE CHIYODA CASTLE

家康、千代田城入城

author KOU SUZUKI
supervisor YU HIRAYAMA & HIROYUKI SHIBA

はじめに

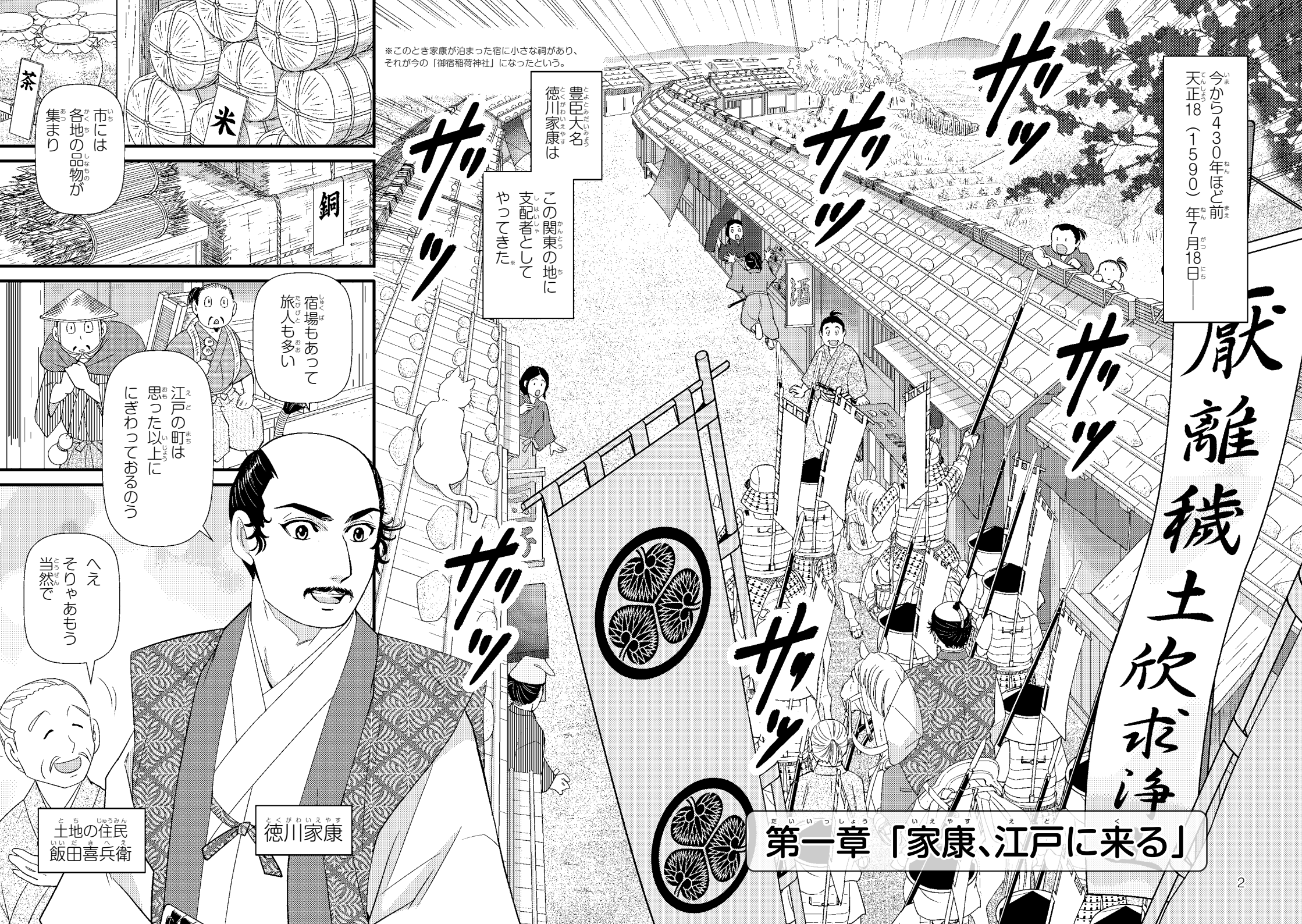
現在から約430年前の天正18（1590）年7月、徳川家康が武蔵国江戸（現在の東京）へ入部しました。家康が入部したときの江戸について、よく知られているのは、寂れた漁村にあり、家康が都市として切り開いてといったということではないでしょうか。

ところが、江戸はすでに室町時代には関東における水陸交通上の要地であったことから、経済的な活動を確認することができます。さらに江戸城が築かれると、戦国時代には政治拠点としての重要性が伴われていきました。この江戸の立地事情にいち早く目をつけたのが、実は羽柴（豊臣）秀吉であり、家康は秀吉の指示を得て、豊臣政権の関東・東北地方に対する抑えという役割から入部したのです。

江戸に入部した家康は、関東各地に家臣を配置し領国の経営を進めていく一方、江戸城の修築とともに、日比谷入江の埋め立て、上水道の整備を行い、城下町としての江戸を整備していきます。そして、慶長5（1600）年9月の関ヶ原の戦いでの勝利を経て、家康が天下人となると、江戸は徳川将軍家による全国政権（江戸幕府）の拠点として、世界有数の大都市へと発展していくことになります。

本書は、近年の研究で明らかとなった徳川家康の江戸入部からの歴史をすずき孔さんがマンガでていねいに描いています。ぜひとも多くの方に手に取ってもらい、家康と江戸、そしてその時代や社会についての関心と理解が広まっていくことを期待します。

柴 裕之


今から430年ほど前
天正18（1590）年7月18日――
厭離穢土欣求浄
ザッ
ザッ
ザッ
ザッ
ザッ
ザッ
豊臣大名
徳川家康は
この関東の地に
支配者として
やってきた※
※このとき家康が泊まった宿に小さな祠があり、
それが今の「御宿稲荷神社」になったという。
酒
米
銅
茶
市には
各地の品物が
集まり
宿場もあって
旅人も多い
江戸の町は
思った以上に
にぎわっておるのう
へえ
そりゃあもう
当然で
徳川家康
土地の住民
飯田喜兵衛

第一章「家康、江戸に来る」

何しろこの江戸は古来よりさまざまな道の分岐点でして

浅草
江戸
品川湊

北は河越（川越）・岩付（岩槻）
東は浅草を経て房総（千葉）
南は蒲田
西は武蔵府中・鎌倉
さらには西国へ

ほお〜っ

さらに多くの川や品川湊を利用すれば関東のどこへでも行けるというわけか！

だからこそ名将太田道灌公はこの地に城を築き

先代の北条家当主北条氏政殿も自らここを支配されていたのだな

へえ

だが…そんなに便利ならもっと大きな町になりそうなものだが

そのことですが…

家臣 本多正信

おお水か気が利くな正信

ちょうど暑くて喉が渇いていたところだった

ゴク…

あっ殿…その水は

ぶっ…

しょっぱい！なんだこれは

プッペッ

じじつはこの辺りは海に近く井戸を掘ってもこのような塩水しかというのを今ご説明しようと水を…

先に言え

この町の最大の問題は水です

満潮時には川にも海水が入り塩辛くなるので小川をせき止めてため池を作るしか飲み水を得る方法がないそうです

わが家臣団とその家族を住まわせたらすぐに水がなくなるかなるほどのう…

はい…

いや面白いではないか

水問題さえ解決すれば関東全体の支配にとってこの上なく有利な地

さすが関白秀吉公われらに良い場所を指定してくださった

これより数か月前
関白 羽柴秀吉は
総勢20万もの大軍で
小田原城を包囲
全国の統一を
目前としていた
徳川殿
※神奈川県小田原市にある城
この城が落ちたら
関東をそっくり
そなたに与えよう
えっ
江戸…？ですか
江戸という町に
移るがよい
関白
羽柴秀吉
武蔵国の海岸にある町で
北関東や東北への
入り口となるところじゃ
そなたには
豊臣政権のいわば
駐留軍となって
関東東北に
にらみを
利かせてもらう
は…
※今の東京都・埼玉県・神奈川県東部のこと
まもなく天下は
わしのもとに一つになる
だが関東や東北には
いまだに不穏な動きを
する者たちがいる
そこで東国大名と
付き合いのある
徳川殿に彼らを
監視してもらい
彼らが戦を始めたら
わしの代わりに
討伐してほしいのだ
関東奥両国惣無事！
二度と乱世に戻さぬよう
関東東北の大名の
私闘を禁じ平和を保つ…
わが配下で
これができるのは
軍事力と統治能力に
優れた徳川殿だけだ

家臣や他の大名をさしおいて

つい6年前まで敵対していたわしにこんな広大な領国を与えるとは…

関白様はそうまでして関東と東北を押さえたいと願っているのか

あの方は本気で乱世を終わらせようとしている

しかし家康は豊臣配下の大名の中で最大の240万石の領国を与えられており

秀吉の親類大名（秀吉の妹の婿）にもなっている

これまでの通説では

家康が関東に来たのは「秀吉が家康を警戒し都から遠い所に追いやった」ためだとされてきた

実はその実力を買われ東国の押さえという大事な役目を任された…と今では考えられている

※江戸城の別名。「千年栄える田」を祈って太田道灌が「千代田城」と名付けたという伝承がある。最近の研究では家康入城時にその呼称はなかったとされるが本書ではあえて「千代田城」とした。

おお…

あれが千代田城か！

飯田喜兵衛よ江戸の案内ご苦労だった※

へへえっ

※喜兵衛の丁寧な案内を家康が気に入り地名を飯田町とした。今は飯田橋としてその名を残す。

故郷を離れて関東へ来るのは寂しいが

わしはこの町の持つ力を信じる

千代田城…その名のように千代まで続く城となれ

第二章 江戸の工事と豊臣大名家康

千代田城に入った家康は忙しい日々を送った

まずは領地をうまく治めるためのしくみ作りじゃ

240万石という広大な領地だ分割してそれぞれの地域に一番合った治め方をしよう

中央部や要所は家康が直接管理する本領国（直轄領）

周辺の重要な地を家康の親族による一門領とし

外側には重臣を配置して支城領とし守りを固めた

そして本領国は4人の代官頭に実務を担当させ

代官頭 伊奈忠次

直属の家臣である旗本を各所に配置した

※山梨県

中でも旧武田家臣からなる旗本とその配下500人は八王子城下の治安維持甲斐方面の防備を担当

甲州街道

←甲斐

八王子

→江戸

関ヶ原の戦いの前には1000人に増員され「八王子千人同心」として幕末まで続いた

甲斐出身の俺たちが今度は甲斐を警戒する役目を任されるとは

※田畑の面積を測ること

さらに領国全体の検地を行い

その合間に東北で起きた反乱の討伐に遠征——

わーっ…

千代田城と城下の普請（工事）はそんな中で始められた

屋敷の補修は後でよいが東国の拠点として防備は固めねばならん

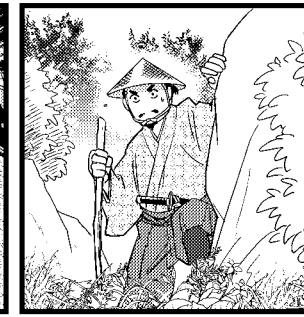
まずは本丸を拡張し西に新城を築く

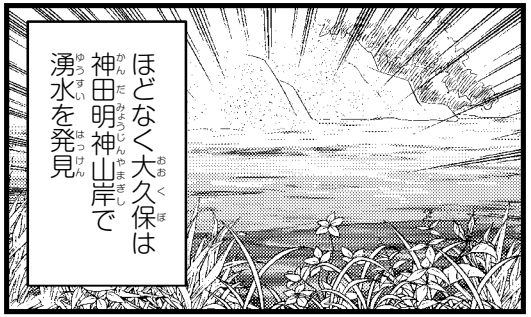
同時に

大久保藤五郎江戸の上流で飲料水に適した水源を探せ

はっ

大久保藤五郎





ほどなく大久保は神田明神山岸で湧水を発見

小石川上水を開き江戸の北東の町場に水が供給された

後に拡張され神田上水と呼ばれる

おおーッ

この功績により大久保は

「主水」

という名を賜わり

普通は「もんど」と読むが上水は濁ってはいけないので「もんと」と読むよう命じられた

主水

ちなみに「上水」とは

地下の木樋を通じて市中に水を供給する仕組みである

木樋

よく時代劇で江戸の長屋の井戸から水を汲むシーンがあるが

あれは地下水を汲んでいるのではなく地下に張り巡らされた「水道」から水を汲んでいるのである

ふーー…

次は城下町だが…

千代田城と江戸前島の間の日比谷入江

これが町の発展を妨げております

神田山

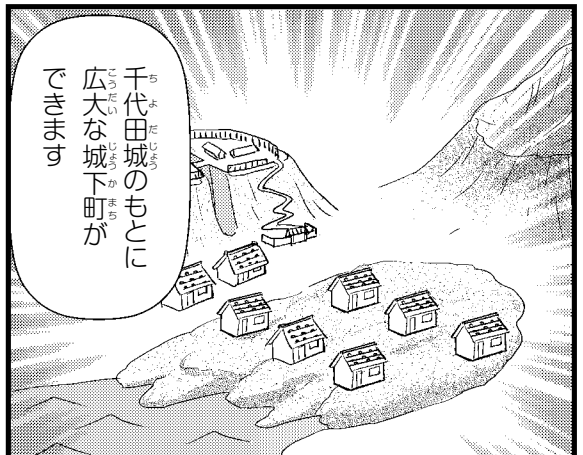
千代田城

日比谷入江

江戸前島

そこで

後ろの神田山を切り崩しその土で入江を埋めれば



千代田城のもとに広大な城下町ができます

なるほどのう…壮大な話じゃ

はっ

ですがそれには下準備がいります

まず入江にそそぎこんでいる平川の流れを変えて水の流入を断ち

そのうえで江戸前島に水路を掘って

入江の水を外海に流さねばなりません

うむ…気の遠くなるような工事じゃが…

費用もバカになりません

よしやろう！

日本は関白様のもとに統一された

戦しか知らぬわれらが初めて経験する世が始まる

これは次の時代に向けて作る最初の城じゃ

ははっ

だが家康は突然江戸を離れなければならなくなった

※秀吉が明国（今の中国）を攻めるためにまず朝鮮（今の韓国・北朝鮮）を攻撃した戦い。

文禄元（1592）年秀吉による朝鮮出兵が始まったのである

仕事がなくなった武士の不満を解消するには海外に戦を仕掛けるしかない

ようやく大名は国を富ませることに金を使えるようになったというのに

関白…いや太閤様も愚かなことを…

※秀吉はこの前年に関白職を譲り太閤と呼ばれるようになっていた。

家康は秀吉につき従って

江戸のことが気がかりだが…

朝鮮渡海の玄関口となった肥前名護屋城（佐賀県）へいくことになった

家康が留守の間にも江戸の普請は着々と進められた※

しかしそれは困難を極めた

※文禄元年９月～文禄３年７月までは秀吉の伏見城築城の手伝いのためにたびたび中断。

突貫工事のため
人々は毎日毎日
暗いうちから
夜遅くまで働いた
朝飯は
昼近くに出て
はぁ〜…
晩飯は宿舎に
帰ってからか…
ぐー…
疲れたよ
掘った土は
堀の上に高く
積み上げられたが
ザ…
ザー！
ザー！
ザッ
おおい！
大雨になってきたぞ！
堀が危ない
ええっ
ワー！
ワー！
掘った土が雨で
堀の中へ流れるぞ
ザシャ
ザシャ
カーン
カーン
柵を立てろ！
うわああ
大丈夫かあ
くっ
武田との
長年の戦いに
比べたら
こんなもの…
千代田城下の
普請工事は困難を極め
侍も中間（身分の低い従者）と
一緒になって鍬を持ち
もっこを担いだという

慶長2（1597）年
伏見――

あれから
家康はほとんど
江戸に帰れず

秀吉の信頼厚き
重臣として
京都や伏見を
活動の場としていた

早く帰りたい……

それで…江戸では
徳川殿の御家来も
土木工事を？

家康の話相手
宗闇（今川氏真）

さすが
徳川軍は
我慢強い

わが今川軍が
歯が立たな
かったのも
うなずけますな

宗闇殿…
昔のことは
申されるな

※静岡県東部

あのときは
戦乱の世で
仕方がなかった

宗闇はかつての名を
今川氏真といい
駿河国の大名であった

家康の
かつての主君で

桶狭間の戦いで
父義元を亡くした後
家康に国を滅ぼされ

今は家康の庇護のもと
京都に住んでいる

家臣のおかげもあって
今は堀もできあがり
沿岸には地元民の町も
できたそうな

新天地を求めてくる者で
人口も膨れ上がっているとか

※江戸前島を横断する人工水路（のちに道三堀と呼ばれる）の沿岸。

徳川殿は
江戸の話をすると
楽しそうですな

うむ…町が発展する話を
聞いているときは
明るい気分になれる

もしや…
太閤様のお加減が
悪いのですか

……

信長様が
亡くなったときも
天下は乱れた

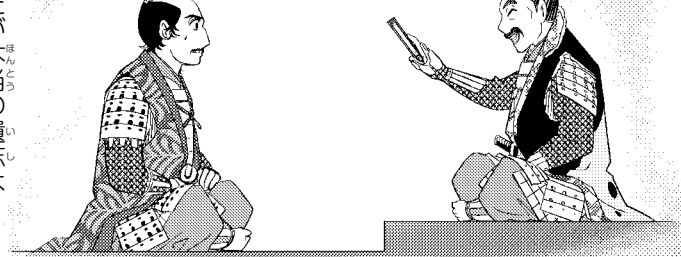
今回も必ず
そうなるだろう

では
今ここにいるわしが
すべきことは

何か…

そんな中

慶長3（1598）年8月18日
秀吉が幼い秀頼を残して死んだ
家康たち重臣は朝鮮出兵を中止し兵たちを帰還させた
秀吉は死の間際に
実務担当の5人の奉行と
家康ら有力大名5人で政治をするように遺言し
秀頼
五大老
五奉行
秀頼が成人するまで乗り切ろうとしたのである
だが
秀吉の遺言を最初に破ったのは家康だった
秀吉が禁じた大名同士の結婚を勝手に進めたのである
徳川殿太閤殿下の規則を無視するとは何ごとか！
……
やがて「親家康派」と「反家康派」の名を借りて恨みを持つ大名同士で私闘が始まった
家康の力は反対勢力を抑えるごとに強大となり
まもなく豊臣政権の主導権を握った
そして――
！
家康は伏見城にさらに大坂城西の丸に入り
だれが一番強いのか一目でわかるように世間に示した
伏見城も大坂城も家臣が入ることは許されない場所…
徳川殿こそが今の「天下殿」だ…！



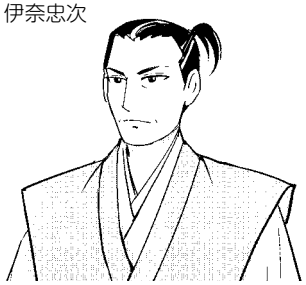
江戸の発展に尽くした三人の男たち

平山優

今日の東京につながる江戸という大都市建設を行ったのは、徳川家康であるが、江戸幕府の本拠地にふさわしい偉容の形成は、多くの人々の知恵と技術の賜物であった。ここでは、成立期の江戸の賑わいに大きく関わった三人の人物を紹介したい。

まずは伊奈忠次である。彼は関東の代官頭に任じられ、徳川領国の民政全般に関与し、同僚の大久保長安とともに税制の整備に大きな成果を挙げた。忠次が江戸に大きく寄与した成果は、利根川の東遷事業である。「板東太郎」の異称で呼ばれた利根川は、関東一の河川だが、暴れ川としても知られ、とりわけ江戸で江戸湾に流れ込んでいたことから、この地域は洪水の常襲地帯でもあった。江戸を安定した都市にするためには、利根川の主流を東に変更する必要があった。家康は、この難事業を土木工事の専門家でもあった忠次に命じたのである。この大事業は、家康と忠次の生前には実現しなかったが、四代将軍家綱の時代に完成し、関宿（千葉県野田市）を分岐点に銚子（同銚子町）に注ぐ利根川本流と、江戸湾に注ぐ分流（江戸川）が形成され、江戸の水害の危険性は大きく低下

伊奈忠次



言い伝えでは

家康は神田明神に戦勝の祈禱を行ったという

そして慶長5（1600）年9月15日神田祭の日に

最後にして最大の反家康勢力との戦い関ヶ原の戦いで

家康は西国大名毛利輝元や石田三成らが率いる西軍に勝利を収めた

第三章 家康、征夷大将軍にそして大御所となる！

敵の領地を取り上げ部下へほうびとして与えた結果

徳川氏の勢力範囲は東北から近畿までに拡大

家康は最終的な勝利者となった

ヤン・ヨーステン

ウィリアム・アダムス

した。その事業の先鞭は、忠次の功績なくしては語れない。

次に、ウィリアム・アダムスとヤン・ヨーステンを紹介しよう。二人はともに慶長5（1600）年、豊後国（現在の大分県）に漂着したリーフデ号の乗員でともに航海士であったが、アダムスは造船技術や貿易経験の実績を買われ、家康により江戸日本橋に屋敷を与えられた。ここは当時、江戸湾に面しており、建造された船を係留する格好の場所であった。アダムスは、家康の命により大型船の建造、母国イギリスと日本との貿易仲介などで手腕を発揮し、三浦按針と名乗り、日本で生涯を終えた。

またヨーステンは、母国オランダと日本の貿易仲介に意欲をみせ、自身は朱印船貿易により東南アジア諸国との交易に身を投じるなど、商人として活動した。家康は、彼に江戸内堀沿いに屋敷を与えたが、ここは日比谷入江が完全に埋め立てられるまでは、入江の最奥部にあたり、彼の屋敷は海に面していたのである。ヨーステンは、耶楊子と名乗り、のちにインドシナ沖で遭難するまで、江戸と海外との交易を推進した。なお、ヨーステンの屋敷跡付近は、「八重洲」と呼ばれ、彼の名を今に留めている。

合戦の後
家康は大坂城で
秀頼に拝謁した

家臣の争いを治め
国の平穏を
取り戻しました

徳川殿
ご苦労様でした

秀吉の子
羽柴秀頼

秀頼の母
淀殿

彼の立場は
いまだ豊臣政権の
執政役

つまり
羽柴家の家老の
ままであった

※当時の武士の名前には苗字と姓があり、秀吉や秀頼の家の苗字は羽柴、姓は豊臣だった。

いやあ
めでたい

まさに徳川殿は
名実ともに
天下人ですな

とはいえわしは
秀頼様の家来

味方になってくれた
大名たちにほうびの
領地を与えても

領知宛行状を出す
ことはできぬ

つまり正式な
ほうびは出せない
身分だ

※その土地の権利保証書

ずいぶん
不自然な
状況ですな

ここ数年の争いで
五大老・五奉行は
ほとんどいなくなり

五大老

五奉行

今は徳川殿が一手に
国の政治を引き受けている
ようなものですのに

今の立場では
全国の大名を
率いていくことは
とてもできぬ…

そろそろ立場を
はっきりさせたほうが
よいだろうな

手始めに家康は
秀吉から与えられた
苗字と姓を捨て

苗字　羽柴 ← 徳川

姓　豊臣 ← 源

自分の名前を元の
徳川（源）家康に
戻した

源家康

それまで秀吉に従った
大名たちはみんな
羽柴の苗字と
豊臣の姓を与えられ

公式の場では
それを名乗る
決まりだったが

それをやめることで
独立する意思を
示したのである

これでみんな
わしの一族じゃ！

羽柴豊臣家康

羽柴豊臣利家

羽柴豊臣輝元

家康は征夷大将軍に就任

すべての武家の頂点に立ち江戸幕府を開いた

だがこのときは家康個人が天下人であって徳川家が天下人の家となったわけではなかった

人々は

今は家康様の力が強いだろうけど

秀頼様が成長したらまた羽柴の天下になるんじゃないのかね

ヒソ

ヒソ

どうせすぐ世が乱れるんだろう…

その心配を晴らすように家康は

慶長10（1605）年息子の秀忠に将軍職を継がせ

羽柴家がもう国の指導者ではないことをはっきりと示した

二代将軍 徳川秀忠

そして当時の武家の首都である伏見で政務をとり

羽柴家が独占していた関白職を摂関家に戻し

※摂政・関白の職につく資格がある家

関白

東海道の道路を整備し公用の書状や荷物をリレー方式で運ぶ制度（伝馬制）を作り

新しい金貨と銀貨を鋳造させ

外国との交易権も支配下に置いた

これまでは誰でも勝手に外国と交易していたが今後はこの朱印状を持つ船だけができるのだ

えぇ―ッ

こうして

確かに世の中は徳川様のものになったんだなあ…

へえ――…

…という意識が人々の間に浸透し始めた

※五街道の起点となるのは翌年

慶長8（1603）年江戸の町に五街道の起点となる日本橋がかかり※

芝崎村（現在の大手町）にあった神田明神が神田台へ移され

江戸がますます大きくなろうとしていたまさにその年――

おのれ家康…
秀頼が成長するまでお支えせよという太閤殿下の御命令を忘れおって！
もう天下を譲るつもりはないということか
家康は秀忠の将軍就任祝いに秀頼を招いたが…
行って挨拶すれば上下関係を認めることになる
そんなことをするなら秀頼を殺して自分も死ぬ
わしは羽柴家を滅ぼそうとは思っておらぬ
徳川家の天下を認めて臣下になってくれればそれでいいのだ

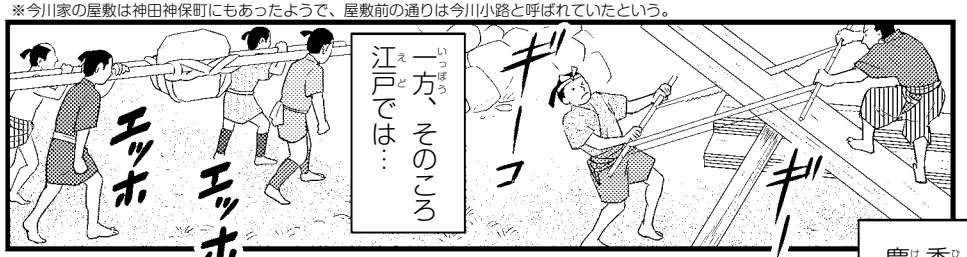
ようやく世の中が治まりかけたのに
だれが好き好んで戦を起こして元主殺しの汚名などかぶりたいものか
今川家の当主だった私も負けを認めたことで許され今も家を存続させています
秀吉に負けた織田家もしかり…
先代の築いたものが大きいほどそれを捨てるのは辛いもの
早くそれを振り払うことができればよいのですが…
宗閤殿…
※今の静岡県静岡市
ところで将軍職を辞めた後はどうされるのですか
わしは駿府で大御所として政務を取ろうと思う
ほう…われらが昔暮らした駿府とは懐かしい

そなたもまた遊びに来てくれ

ぜひ！

慶長17（1612）年
駿府の家康を訪ねた
宗閻は
江戸近郊の品川に
屋敷を与えられ※
そこで没している

※今川家の屋敷は神田神保町にもあったようで、屋敷前の通りは今川小路と呼ばれていたという。



一方、そのころ
江戸では…

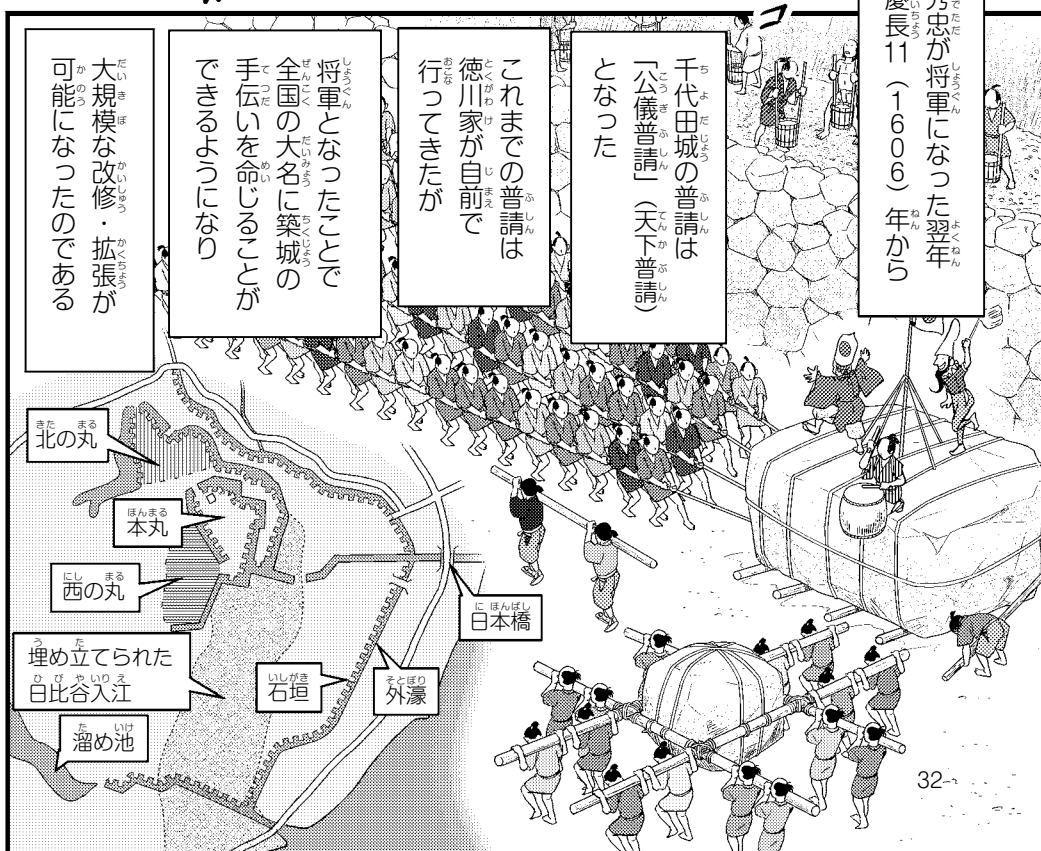
秀忠が将軍になった翌年
慶長11（1606）年から

千代田城の普請は
「公儀普請」（天下普請）
となった

これまでの普請は
徳川家が自前で
行ってきたが

将軍となったことで
全国の大名に築城の
手伝いを命じることが
できるようになり

大規模な改修・拡張が
可能になったのである



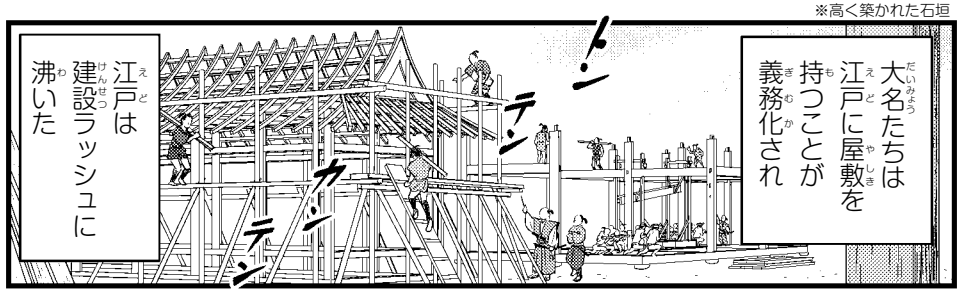
まずは
将軍家の城として
ふさわしくなるよう

千代田城の本丸
二の丸、北の丸を
高石垣にする

外様大名36家には
石垣の石の調達と
その工事を命ずる

はは―っ…

※高く築かれた石垣



大名たちは
江戸に屋敷を
持つことが
義務化され

江戸は
建設ラッシュに
沸いた

中には
日比谷入江に
屋敷地を拝領し

屋敷を建てる前に
海の埋め立てを
しなくては
ならんとは

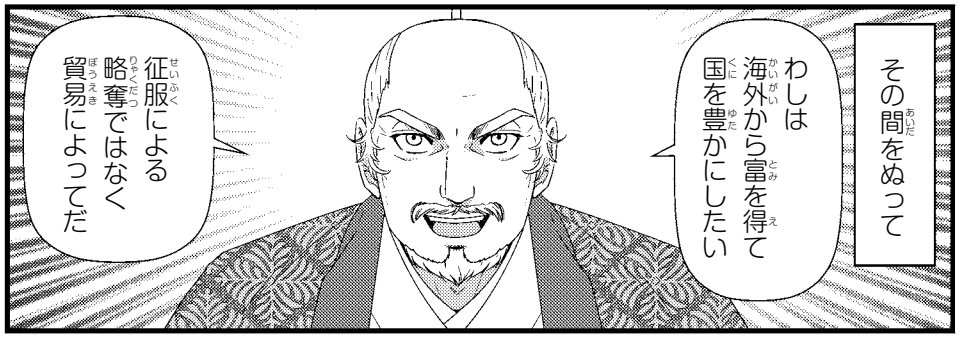
…という
大名もいた

戦乱が終わり

ようやく千代田城と
江戸の町は
本格的に変貌
し始めたのである

※当時の江戸（江戸初期）は、千代田城を中心に今の千代田区、中央区あたりをいう

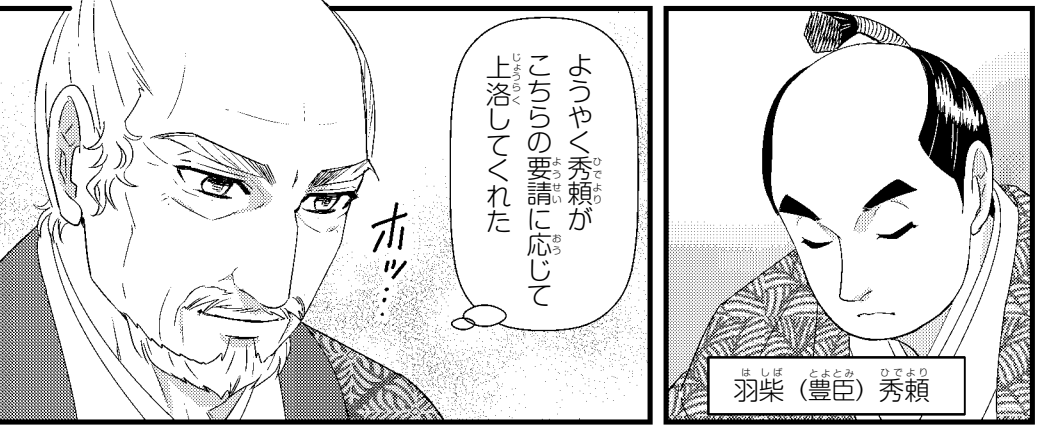
第四章 大御所家康、駿府城に入る！

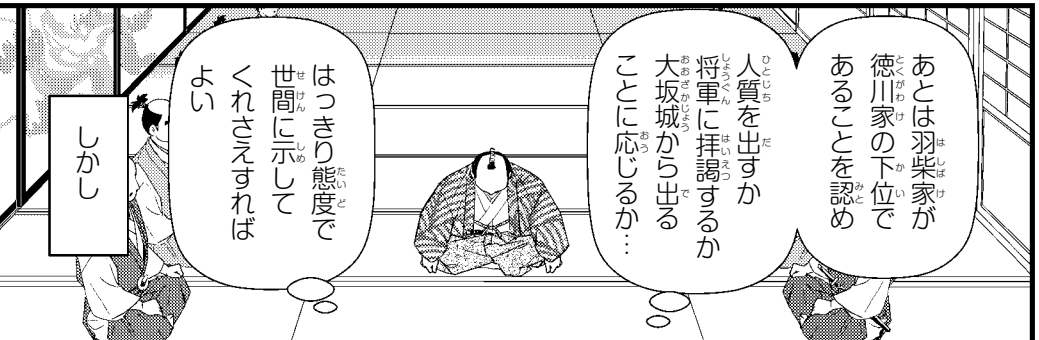


慶長12（1607）年
家康はさっそく朝鮮出兵以来断絶していた朝鮮との国交を復活させ
東南アジア各国の国王に国書を送って貿易をしたいと求めた
私が発行したこの朱印状を持った船は海賊ではありません
うちの国はもう平和ですから来ても安全です！
安心して交易してください
安南
暹羅
呂宋
柬埔寨
交趾
太泥
※その国のトップにいる人が外国に向けて出す外交文書。
さらには遠く西欧諸国とも国交を結ぼうと接触を図った
慶長5（1600）年プロテスタントの国オランダの船（デ・リーフデ号）が日本に来たとき
ボロ…
※キリスト教の一派。オランダやイギリスなどに信者が多い。
しかし家康は外国人側の言うことを鵜呑みにせず情報をもとに自分の頭で考え判断を下した
彼らと宗教的に対立していたイエズス会士は彼らは海賊です処刑すべきだという嘘の噂を広め家康にも訴えたが
家康はそれに惑わされず乗船員を引見
その知識と人柄に感心し家臣に取り立てたのだった
オランダ人船員ヤン＝ヨーステン※
イギリス人航海士ウィリアム＝アダムス
※彼が住んでいた屋敷のあたりは「やよす」とよばれ、それが現在の八重洲の語源となった。
また家康は西欧諸国のキリスト教による植民地化政策を把握しており
なんと…
慶長17年には直轄地で慶長18年には全国に禁教令を広げ
キリスト教の弾圧を図った

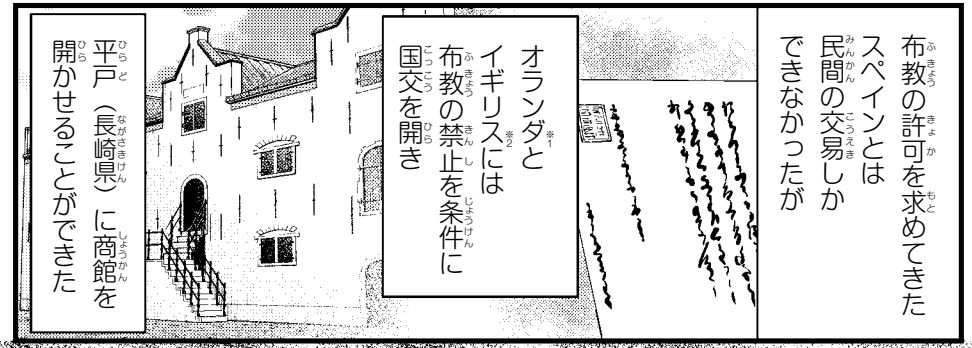
慶長17（1612）年
家康は二条城で
秀頼と会談した

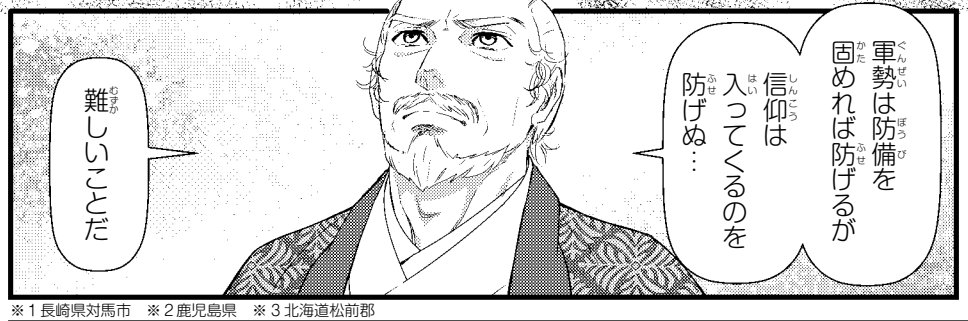
第五章 家康、大坂城を攻める



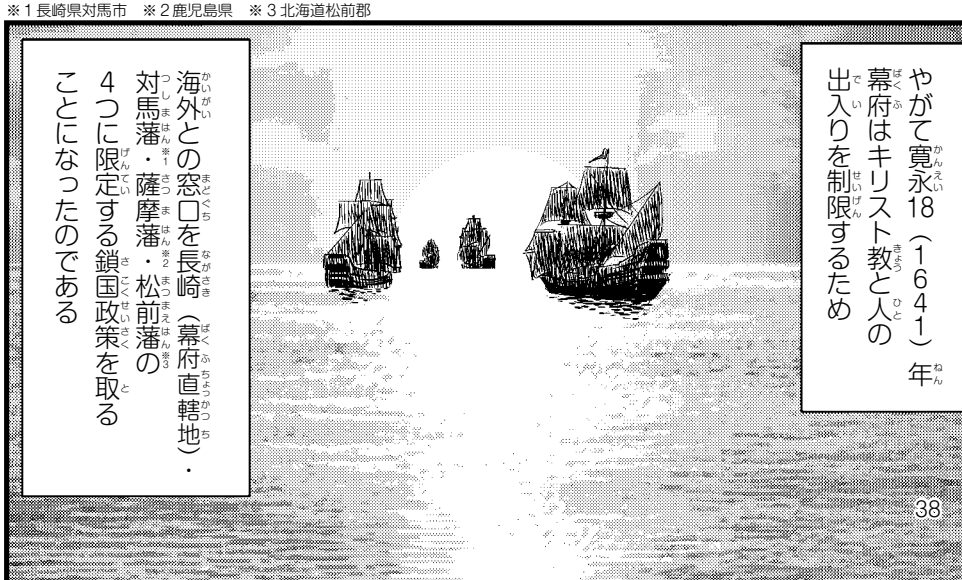


※1慶長14年(1609)から　※2慶長18年（1613）から





※1長崎県対馬市　※2鹿児島県　※3北海道松前郡



官位で上位にある家康個人には頭を下げてもよいが徳川家と秀忠に頭を下げる義理はない

その後も秀頼は大坂城に多くの牢人を召し抱え

※仕える主のいない武士

家臣へ勝手に官位を与える※など不穏な動きをやめなかった

※武士に官位を与えるかどうかは徳川家が決めていたが、羽柴家は関白家なので官位を与えることができた。

秀頼殿は本当に徳川家に従う気があるのか

徳川方は不信感を強めていた

そんな中――

慶長19（1614）年京都大仏（方広寺）鐘銘事件が起きる

羽柴方が再建した寺の鐘に刻まれた「国家安康・君臣豊楽」の言葉が不吉だとして徳川方が書き換えを要求した事件である

これは徳川方の言いがかりといわれてきたが

当時の常識では明らかに失礼にあたるもので

最近ではこの文章を考えた側のほうが軽率だったといわれている

たしかに失礼な銘文ではあったが

羽柴家に譲歩を求めるいい機会かもしれん

家康は羽柴方に銘文の修正を求め

秀頼が淀殿が江戸に来るもしくは大坂城を出ていけば許そうといった

だがかえって秀頼方は怒り

そんな要求をおとなしく持ち帰ってくるとは

さては徳川に丸め込まれたか

徳川と羽柴の交渉役を務める家老片桐且元を追放してしまった

ドンッ

おろかな…

交渉役の家臣を追い出すということは相手国との話し合いを打ち切ること…開戦を宣言するのと同じだぞ！

そんな戦国の常識を知る者もおらぬのか大坂方は…

こうして慶長19（1614）年大坂冬の陣が始まった

時代はすでに徳川の世であった

有力大名の多くは政略結婚によって徳川家の親戚となっており

羽柴方につく家は一つもなかった

すぐに和睦が結ばれた

大坂城の武装解除が条件です

なおこれまでは

このとき徳川方が羽柴方をだまして大坂城の内堀まで埋めたといわれていたが

実際には最初からすべての堀を埋める取り決めになっていて

羽柴方もそれを承知していた

徳川方の罠だったというのは後世の創作である

しかし

その後も羽柴方は牢人を追い出さず秀頼も大坂城から出ていかなかった

おーい武器を買ってきたぞ

ゴトッ!!

ガヤガヤ…

秀頼は和睦を守ろうと新たな牢人を雇わなかったが

すでに大坂城内は牢人たちとそれを率いる家臣たちが力を持ち

秀頼も淀殿も彼らを制御できなかった——といわれる

ガヤガヤ…

大坂方はまったく武装解除しないではないか

徳川方はそれを和睦の約束を破ったとみなし大坂夏の陣が始まった

ワーワー

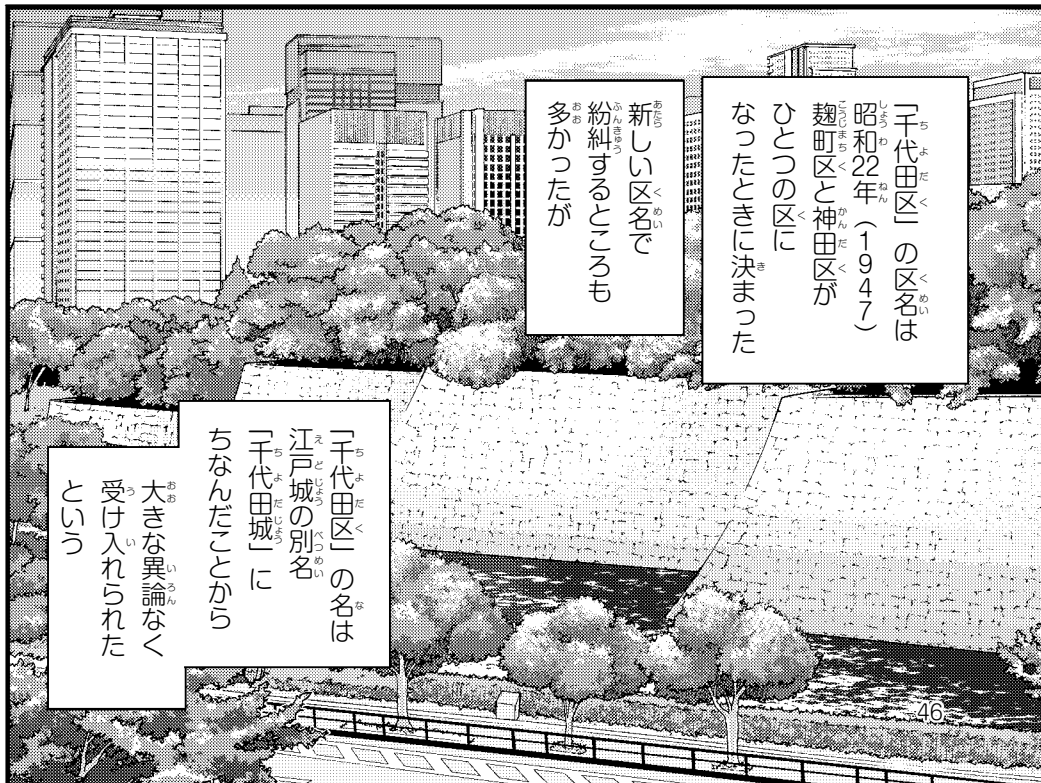
羽柴家を残そうとこの17年間機会を探り続けてきたが…

土欣求浄土

これからの世を生きるのはわしではなく息子の秀忠だ

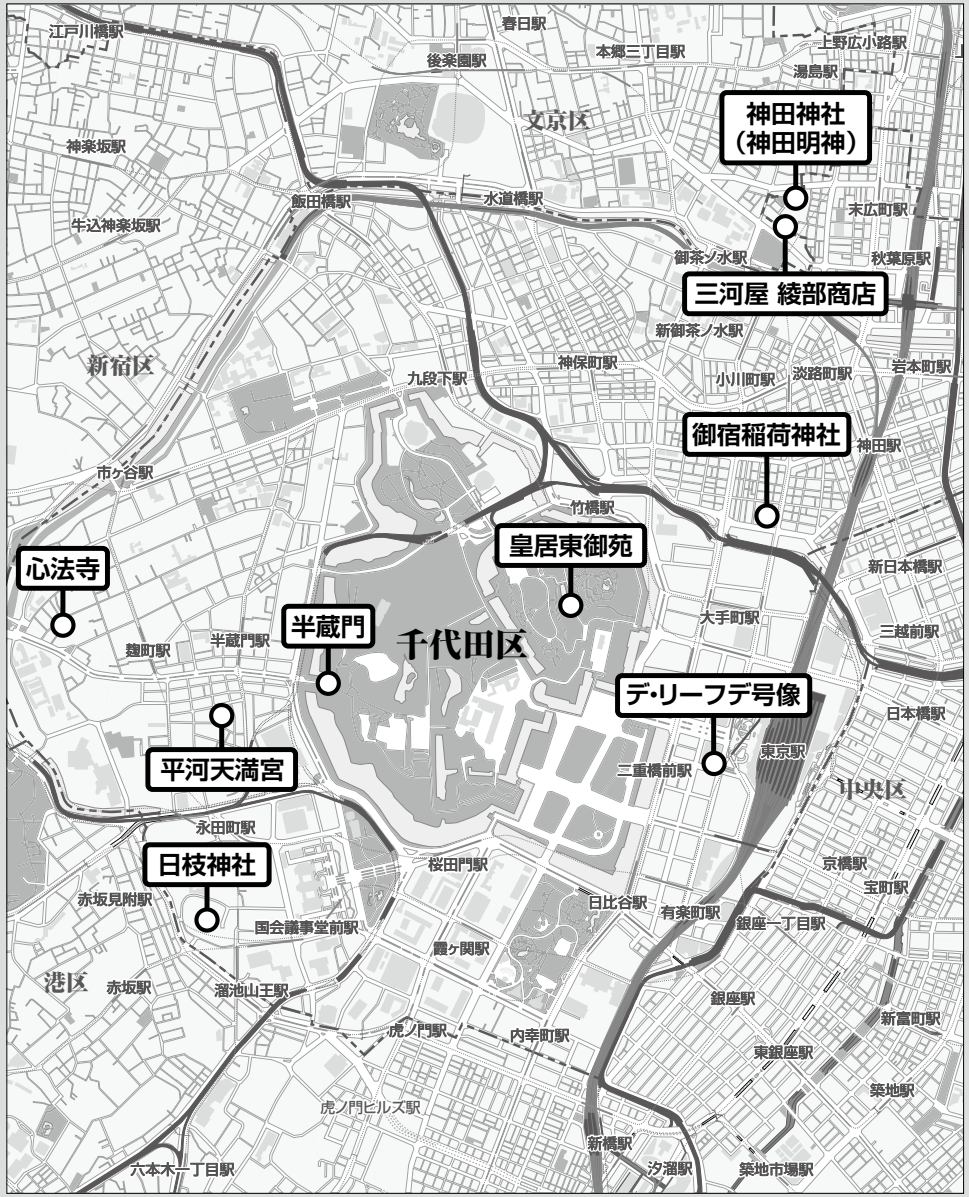
今後も羽柴家と生きたいかそうでないか…秀忠に決めさせよう

秀忠の判断で助命交渉は断絶羽柴家は滅亡した
これで…本当に乱世が終わったのう
羽柴家滅亡から1年後――
元和2（1616）年4月17日家康は死去した享年75歳
神田山
家康の死んだ年神田川の開削が始まった
神田山を切り開き水路を作るという難工事である
城
城下町
ありがたい…これで江戸は水害から守られるぞ
元和6（1620）年には普請工事が再開され千代田城は石垣の城へと生まれ変わり
元和9（1623）年には本丸の拡張にともない現在の天守台の位置に二代目天守も完成した
大御所の頃はまだ西国が安定せず伏見と駿府で政治をされたが
二代将軍徳川秀忠
わしは将軍職を譲った後もこの千代田城にて政治をする
新しい時代の到来を徳川家が関東に根を下ろすことで示すのだ



千代田区内の家康関連史跡マップ

家康が拠点とした千代田城（江戸城）は、現在の「皇居」に所在した。周辺には他にも家康に関係する史跡が多く存在する。ここでは代表的なものを紹介しよう。



『家康、千代田城入城』参考文献

【書籍】

『徳川家康と今川氏真』（黒田基樹、朝日新聞出版、2023）／『ビジュアルでわかる江戸・東京の地理と歴史』（鈴木理生・鈴木浩三、日本実業出版社、2022）／『図説 徳川家康と家臣団』（小川雄・柴裕之編著、戎光祥出版、2022）、「家康公検定 2022 副読本『家康公の平和外交』」（徳川家康公に学ぶ会、徳川記念財団、2022）、『ウィリアム・アダムス』（フレデリック・クレインス、筑摩書房、2021）、『江戸―平安時代から家康の建設へ』（斎藤慎一、中公新書、2021）／『都市計画家（アーバンプランナー）徳川家康』（谷口榮、エムディエヌコーポレーション、2021）／サライ・ムック『「江戸始図」でわかった”家康の城”の全貌 江戸城と大奥』（小学館、2018）／『徳川家康 - 境界の領主から天下人へ -』（柴裕之、平凡社、2017）／『織豊期主要人物居所集成〔第二版〕』（藤井譲治編、思文閣出版、2016）／『江戸はこうして造られた』（鈴木理生、筑摩書房、2000）

【講座・講演】

「家康が見た江戸の城と町」（講座レジュメ、斎藤慎一、えどはくカルチャー、2023）／「徳川家康と江戸城」（講演会レジュメ、後藤宏樹、シンポジウム徳川家康と小田原・江戸、2023）

【Web サイト】

「千代田区町名由来板」（千代田区 HP：千代田区ホームページ - 町名由来板：町名から探す (chiyoda.lg.jp)　ほか）／「八王子千人同心の歴史」（八王子市公式 HP：八王子千人同心の歴史 - 八王子市公式ホームページ (city.hachioji.tokyo.jp)）

【その他】

『太田道灌が築城した江戸城（全体想定図）』（イラスト：香川元太郎、考証：西ヶ谷恭弘、東京国際フォーラム内太田道灌コーナー）

千代田区×徳川家康プロジェクト
家康、千代田城入城

2023 年 12 月 15 日初版初刷発行

作　画　すずき孔
監　修　平山優　柴裕之
発行者　一般社団法人 千代田区観光協会
企　画　株式会社ポニーキャニオン
編集･制作　戎光祥出版株式会社
印刷･製本　シナノパブリッシングプレス
装　　丁　山添創平

© 一般社団法人 千代田区観光協会 2023　Printed in Japan

千代田区内の家康関連史跡紹介

御宿稲荷神社
千代田区内神田 1-6

家康が関東に移封されたときに宿をとった武州豊島郡神田村（現在の内神田 1 丁目付近）の邸宅に祀られていた小祠を、家康足留めの記念として「御宿稲荷神社」と称して土地を与えたのが始まりと伝えられる。

心法寺
千代田区麹町 6-4-1

家康の関東移封にともない家康と一緒に江戸に来た三河国（現在の愛知県）の僧・然翁聖山上人が、慶長 2(1597) 年に開いた浄土宗の寺院。三河に帰ろうとした上人を家康が引きとめ、現在地にお堂を建てた。

デ・リーフデ号像
千代田区丸の内 2-4-1

本像は慶長 5 (1600) 年、九州に漂着したオランダ船の像。船員のヤン・ヨーステンが家康の信任を得、この地に近い堀端に屋敷を得たことにより、堀端は「やよす河岸」と呼ばれ、「八重洲」の語源となった。

平河天満宮
千代田区平河町 1-7-5

文明 10 (1478) 年、太田道灌によって江戸城内に建立された。慶長 12 (1607) 年に二代将軍秀忠公により現在地に奉遷された。主祭神は学問の神様菅原道真だが、家康も合わせて祀られている。

皇居東御苑
千代田区千代田 1-1

家康が居城とした旧江戸城（千代田城）の本丸、二の丸、三の丸の一部を整備し昭和 43 年に一般公開された皇居付属庭園。21 万㎡にも及ぶ広大な土地には、「天守台」や「富士見櫓」など多くの史跡が残る。

半蔵門
千代田区千代田 1

家康の江戸入部当時、地形的に守りの弱かった江戸城の西側に守備のために建てられた。家康の信頼が厚い服部半蔵率いる伊賀衆を守備にあてたことから、「半蔵門」と名付けられたと言われている。

日枝神社
千代田区永田町 2-10-5

文明 10 (1478) 年、太田道灌が江戸城内に勧請した。天正 18(1590) 年、家康が江戸に居城するにあたり「徳川家の守り神」や「江戸の産神」として敬われてきた。宝物殿には家康の朱印状がある。

神田神社（神田明神）
千代田区外神田 2-16-2

祭神として平将門を祀る。慶長 5 (1600) 年、天下分け目の関ヶ原の戦い前に戦勝を祈願したとされる。元和 2 (1616) 年、江戸城の鬼門守護のために現在地に遷座し、江戸総鎮守として以後、尊崇を集めた。

三河屋 綾部商店
千代田区外神田 2-17-3

糀製品を製造・販売する「三河屋 綾部商店」を築いた初代は、もともと三河国で徳川幕府の御用商人をしていた。家康と共に江戸に移り、元和 2 (1616) 年「神田明神」が現在の場所に遷座した年に創業された。